

今こそ自己責任を強いる政治を変える時

でもまだ、政治は若い人に冷たすぎると感じています。いま新自由主義路線が強められることで、これが生き方のところまで染み込んで、自己責任という形で生きづらさになっています。

食料支援プロジェクトの相談活動に参加してきましたが、ある4回生の方が最後の方に来られたんですが「コロナでアルバイトのシフトになかなか入れない」「下にきょうだい2人いるので仕送りもあまり受け取らないようにしている」というお話でした。

私も食料支援の活動に民青の時に何度も参加していますが、こういう風に、本人に我慢と努力を強いるということが本当に若いときから沁み込んでいる世代です。

私自身の訴えのなかで、自己責任を押し付けてきた政治を変える道があるということを広げていきたいし、一緒に変えようと同世代や学生・高校生に訴えていきたいと思います。

私が若い世代に訴えていくことで比例5議席を必ず実現すること、そしてたけやまさいこさんを国会へ送り出すことが、その確かな力になることを最後の最後まで訴えぬいて、頑張る決意です。

参院 京都 **たけやま さいこ**

届ける 動かす

やさしく強い経済に

比例代表 参議院議員 **大門 みきし**



新しい世代が、 新しい政治をつくる

堀川あきこプロフィール

1986年、福岡県生まれ、35歳。
立命館大学国際関係学部卒。一般社団法人京都府教職員互助組合の勤務を経て、民青同盟京都府委員長などを歴任。
大学で国際関係を学んだことを活かし、核兵器廃絶のためNPT再検討会議ニューヨーク行動に参加。青年を苦しめる高学費とひどい働き方を変えるためLDA京都を結成し、2000人以上からアンケートを集め、地方議会や省庁へ要請行動を実施。京都府・京都市・労働局による京都ブラックバイト対策協議会設置(2016)や、従業員の奨学金返済を支援する地元企業への京都府による補助事業創設(2017)につながる。

堀川あきこ
twitter



JCP
サポーター
京都



お問い合わせ

日本共産党比例・
たけやまさいこ事務所
Tel: 075 (231) 5198



日本共産党は上記の見解を発表しました。
発行：日本共産党京都府委員会 2022年6月号
〒604-0092 京都市中京区丸太町新町角大炊町
186 Tel:075(211)5371



前民青同盟京都府委員長
日本共産党京都府委員会 常任委員 自治体部長

参院比例

ほりかわ 朗子

堀川あきこ

35歳



私の決意

戦争の準備ではなく平和をつくる政治を

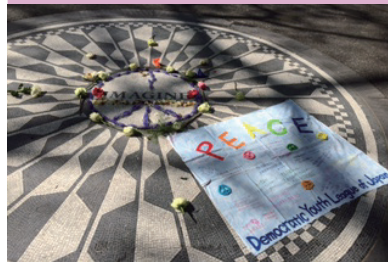
私が今回決意にいたったきっかけは、ロシアによるウクライナ侵略です。この危機を受けて、「9条で日本は守れない。改憲すべき」「アメリカと核共有すべき」という声が、国民の側からではなく、政権与党である自民党、そして維新の会から声高に主張されています。いま日本共産党が伸びないと、日本が戦争に突き進む国になってしまうという危機感です。

私のこの平和を願う原点になっているのは、戦争体験を繰り返し話してくれた祖父母です。私は出身が福岡県大牟田市、三池炭鉱の町で、そこで育った祖母は強制連行の実態を垣間見た話や、祖父は満州へ派兵されていたときの話を聞かせてくれました。祖母は6年前に亡くなり、祖父は昨年亡くなりまして、身近にそういう話をしてくれる存在がいなくなりました。

いま、平和をつくる努力を絶やさない政治にしていくことがなにより大事だと思っています。それが、先の大戦で亡くなられた方々や、次世代に戦争と平和を語り継ごうとしてきた方たちの思いをつなぐことだと思っています。



核兵器廃絶をめざしNPT再検討会議に合わせておこなわれたNY行動



ニューヨークセントラルパークのイマジン碑



青年の声を京都市に届けた



若者の声を集め政治を動かしてきた

もう一つは、私と同世代やもっと若い世代の人たちと一緒にこの政治を変えたいということです。私は民青同盟で長らく活動をしてきて、たくさんの学生や若い労働者の方の実態を聞いてきました。

2016年には、LDA-KYOTOという団体を、民青同盟や労働組合のみなさんと一緒にたちあげました。

およそ1000人の学生や若い労働者のみなさんに働く実態や学費負担、奨学金返済の実態をお聞きして、その実態とともに、学費負担の軽減や返済不要の給付型奨学金制度の実現を求めて、京都府、京都市、そして国にも何度も要請行動を行ってきました。私自身も、学生時代奨学金を借りて、いまでも返済を続けている当事者として、訴えてきました。

この活動のなかで、少しずつ行政の対応が変わり始めました。京都市と府が連携してブラックバイト対策協議会を設けたり、京都府が奨学金返済の支援制度をつくったり、そして国がかなり限定的ではあるけれど給付型の奨学金制度をつくったり、政治は変わるし変えられるということを体感してきました。